平成23年11月期　第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成23年7月8日

上場会社名　イワキ株式会社　　上場取引所　東
コード番号　8095　　URL　http://www.iwaki-kk.co.jp/
代表者　（役職名）　代表取締役社長　　（氏名）　岩城　修
問合せ先責任者　（役職名）　常務取締役　　（氏名）　髙野　滋　　(TEL)03(3279)0481
四半期報告書提出予定日　平成23年7月14日　　配当支払開始予定日　平成23年8月10日
四半期決算補足説明資料作成の有無　：無
四半期決算説明会開催の有無　：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

１．平成23年11月期第2四半期の連結業績（平成22年12月1日～平成23年5月31日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年11月期第2四半期	27,225	11.3	754	212.8	801	189.0	1,492	—
22年11月期第2四半期	24,469	7.4	241	—	277	—	69	—

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円　銭	円　銭
23年11月期第2四半期	55.61	—
22年11月期第2四半期	2.87	—

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円　銭
23年11月期第2四半期	36,376	15,261	42.0	451.58
22年11月期	35,518	15,017	32.9	486.22

(参考)自己資本　23年11期第2四半期　15,261百万円　　22年11月期　11,692 百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭
22年 11月期	—	3.00	—	3.00	6.00
23年 11月期	—	3.00			
23年 11月期(予想)			—	3.00	6.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無　：無

３．平成23年11月期の連結業績予想（平成22年12月1日～平成23年11月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円　銭
通期	54,000	7.1	1,400	183.1	1,400	116.8	1,800	372.0	59.91

(注)当四半期における業績予想の修正有無　：無

４．その他　（詳細は、【添付資料】P.3「その他の情報」をご覧ください。）

（１）当四半期中における重要な子会社の異動　　：無

新規　―社　（社名）　　、除外　―社　（社名）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

（２）簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用　　：有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

（３）会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①　会計基準等の改正に伴う変更　　：有

②　①以外の変更　　：無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数(自己株式を含む)	23年11月期2Q	34,147,737株	22年11月期	24,293,117株
②　期末自己株式数	23年11月期2Q	353,166株	22年11月期	244,746株
③　期中平均株式数(四半期累計)	23年11月期2Q	26,832,136株	22年11月期2Q	24,065,231株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の経済環境予想等の前提に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

１．当四半期の連結業績等に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．その他の情報 …… 3
（１）重要な子会社の異動の概要 …… 3
（２）簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 …… 3
（３）会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 …… 3
３．四半期連結財務諸表 …… 5
（１）四半期連結貸借対照表 …… 5
（２）四半期連結損益計算書 …… 7
（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書 …… 8
（４）継続企業の前提に関する注記 …… 9
（５）セグメント情報 …… 9
（６）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 11

１．当四半期の連結業績等に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第２四半期累計期間（平成22年12月1日～平成23年5月31日）におけるわが国経済は、企業収益の改善など一部に持ち直しへ向けた動きが見られるものの、東日本大震災の影響が懸念されるなど依然として先行き不透明な状況にあります。

このような状況のもと、当社グループでは、重点事業での国内市場の深耕・開拓、基盤事業における企画開発に注力するとともに、品質保証体制・営業管理の強化など、多様化・高度化するお客様のニーズへの対応力強化に努めてまいりました。

この結果、当第２四半期連結累計期間の売上高は２７２億２千５百万円（前年同期比11.3%増）、営業利益は７億５千４百万円（同212.8%増）、経常利益は８億１百万円（同189.0%増）、四半期純利益は１４億９千２百万円（前年同期は６千９百万円の四半期純利益）となりました。

次にセグメントの概況につきご報告申し上げます。

【医薬品事業】

医療用医薬品市場におきましては、昨年４月に改正された『後発医薬品調剤体制加算』等の後発医薬品使用促進策によりジェネリック医薬品の需要は引き続き拡大傾向にあります。

このような状況のもと、医療用医薬品は、医療機関や特約店への営業活動が奏功し、主力の外皮用剤・緩下剤、受託品が大幅に伸長いたしました。

一般用医薬品市場は、個人消費は依然低迷しているものの、当期は気候の影響もあり、風邪薬、鼻炎治療薬をはじめとした花粉症対策関連商品など、例年に比べ季節品の需要が高まりました。

このような状況のもと、新規商品の取り扱いによる品揃えの拡充、需要予測に基づく季節品の欠品防止、また、小売店のニーズを取り込んだ棚割提案などの販売促進活動に注力した結果、当初の計画を上回りました。

さらに、連結子会社の主力品であるビタミンＣ末や提携品の外皮用剤も順調に推移いたしました。

この結果、当事業全体の売上高は９０億７千６百万円、営業損失は１千６百万円となりました。

【医薬品原料・香粧品原料事業】

医薬品原料市場におきましては、医薬品事業に記載のとおり、後発医薬品使用促進策によりジェネリック医薬品原料の需要が拡大傾向にあります。

このような状況のもと、医療用医薬品原料は、大手ジェネリック医薬品メーカーを中心に積極的な営業活動を展開し、ジェネリック医薬品原料の抗アレルギー剤、下剤、利胆剤等が大幅に伸長いたしました。また、主力の解熱鎮痛剤も堅調に推移いたしました。

一般用医薬品原料は、国内向けは伸長いたしましたが、主力の血管収縮剤については、円高の影響を受け低調に推移いたしました。また、ビタミンB_2誘導体は、主要顧客の在庫調整が終了し好調に推移いたしました。

化粧品市場におきましては、メイクアップ関連商品等に回復の兆しが出始めておりましたが、東日本大震災の影響による容器・包材・原料の不足に伴い、市場は横ばいで推移いたしました。

このような状況のもと、新規取引先や取扱商品の拡大に努め、受託加工品の納入再開もあり、好調に推移いたしました。

この結果、当事業全体の売上高は７３億８千万円、営業利益は５億５百万円となりました。

【化成品事業】

電子部品・半導体・自動車関連市場におきましては、薄型テレビが家電エコポイント制度により好調であったものの、東日本大震災による工場の稼働率の低下が懸念され、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、めっき薬品は、国内外とも積極的な営業活動を展開し、環境に優しい関連薬品や半導体関連薬品の拡販に注力いたしました。その結果、国内向け表面処理薬品は、東日本大震災の影響もさほどなく横ばいで推移いたしましたが、海外向け電子部品・半導体関連薬品は、韓国、台湾向けを中心に好調に推移いたしました。

一方、輸入品を中心とした化学品原料は、機能樹脂向け原料や特殊溶剤が好調に推移いたしましたが、塩ビ安定剤原料や汎用溶剤は低調に推移いたしました。

医薬中間体は、低調に推移いたしましたが、特殊薬品は、ポリマー重合触媒の伸長や他製品の拡大もあり好調に推移いたしました。

この結果、当事業全体の売上高は４７億３千２百万円、営業利益は２億７千１百万円となりました。

【食品原料・機能性食品事業】

食品市場におきましては、国際的な原材料価格の上昇傾向に加え、消費者の生活防衛意識を背景とした低価格志向が続いております。

このような状況のもと、安心・安全な食品原料の供給確保を基本としつつ、天然調味料領域及び農産加工品領域への集中を基本戦略に、関連会社製品や主力輸入品の販売拡大に注力いたしました。

関連会社製品は、主力のエキス系調味料の販売回復と機能性素材に関連する受託ビジネスが順調に推移いたしました。

輸入原料は、アミノ酸系調味料が大手ユーザーへの新規納入により伸長し、酵母エキスも調味料市場での需要増加傾向を背景に堅調に推移いたしました。また乾燥野菜、冷凍野菜などの農産加工品も、スナック食品やレトルト食品市場の好調に支えられ前年を上回りました。

サプリメント原料市場は、ほぼ横ばいの状況が続いております。

このような状況のもと、メタボリック対応製品向け原料は伸び悩みましたが、エイジングケア・美容・アイケア製品向け原料はリニューアル提案を続けてきたことにより伸長いたしました。

この結果、当事業全体の売上高は４１億７千４百万円、営業利益は２億２千３百万円となりました。

【その他の事業】

当事業全体の売上高は１８億６千１百万円、営業利益は１億１千４百万円となりました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第２四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、総資産額３６３億７千６百万円（前連結会計年度末比８億５千８百万円増）、負債合計２１１億１千５百万円（同６億１千４百万円増）、純資産は１５２億６千１百万円（同２億４千３百万円増）となりました。

総資産の増加の主な理由は、現金及び預金の増加１０億４千２百万円、受取手形及び売掛金の増加２億２千６百万円、投資有価証券の増加２億２千８百万円によるものです。負債合計増加の主な理由は、支払手形及び買掛金の増加３億７千９百万円、未払費用の増加１億１千９百万円によるものです。純資産の増加の主な理由は、資本剰余金の増加２１億１千８百万円、利益剰余金の増加１４億２千万円によるものです。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

平成23年11月期の業績につきましては、平成23年７月７日に公表しました業績予想に変更はありません。

２．その他の情報

（１）重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

（２）簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分する方法により算定しております。

（３）会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

①「資産除去債務に関する会計基準」の適用

第１四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号　平成20年３月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号　平成20年３月31日）を適用しております。

なお、これによる損益への影響は軽微であります。

②「持分法に関する会計基準」及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用
　第１四半期連結会計期間より「持分法に関する会計基準」(企業会計基準第16号　平成20年３月10日公表分)及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第24号　平成20年３月10日)を適用しております。
　なお、これによる損益への影響はありません。
③表示方法の変更
　「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号　平成20年12月26日）に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成21年３月24日　内閣府令第５号）の適用により、当第２四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目を表示しております。

３．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	当第２四半期連結会計期間末 (平成23年５月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,555,033	3,512,778
受取手形及び売掛金	14,456,017	14,229,365
電子記録債権	450,561	368,679
商品及び製品	3,183,735	3,022,637
仕掛品	751,192	691,876
原材料及び貯蔵品	540,574	505,426
その他	835,342	715,906
貸倒引当金	△56,844	△55,247
流動資産合計	24,715,612	22,991,422
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	8,135,451	8,668,560
減価償却累計額	△5,145,889	△5,522,203
建物及び構築物（純額）	2,989,562	3,146,356
機械装置及び運搬具	7,580,821	7,716,074
減価償却累計額	△6,856,815	△6,953,223
機械装置及び運搬具（純額）	724,006	762,851
土地	3,776,563	4,515,126
その他	1,983,311	1,940,810
減価償却累計額	△1,622,413	△1,627,934
その他（純額）	360,897	312,875
有形固定資産合計	7,851,029	8,737,210
無形固定資産	278,251	320,146
投資その他の資産		
投資有価証券	2,393,277	2,164,983
その他	1,318,886	1,493,145
貸倒引当金	△180,146	△188,352
投資その他の資産合計	3,532,018	3,469,775
固定資産合計	11,661,299	12,527,132
資産合計	36,376,911	35,518,555

（単位：千円）

	当第２四半期連結会計期間末 (平成23年５月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,793,143	11,413,452
短期借入金	4,020,000	4,040,000
未払費用	1,145,517	1,026,517
未払法人税等	340,564	252,735
その他	873,928	703,356
流動負債合計	18,173,154	17,436,062
固定負債		
長期借入金	810,000	840,000
退職給付引当金	1,507,583	1,460,940
その他	625,116	763,870
固定負債合計	2,942,699	3,064,811
負債合計	21,115,854	20,500,873
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,572,382	2,572,382
資本剰余金	4,206,965	2,088,222
利益剰余金	8,372,091	6,951,906
自己株式	△79,251	△57,471
株主資本合計	15,072,187	11,555,038
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	251,257	194,459
繰延ヘッジ損益	△816	△2,154
為替換算調整勘定	△61,570	△54,499
評価・換算差額等合計	188,870	137,805
少数株主持分	―	3,324,837
純資産合計	15,261,057	15,017,682
負債純資産合計	36,376,911	35,518,555

（２）四半期連結損益計算書
（第２四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 (自　平成21年12月１日 至　平成22年５月31日)	当第２四半期連結累計期間 (自　平成22年12月１日 至　平成23年５月31日)
売上高	24,469,375	27,225,891
売上原価	20,882,256	21,686,790
売上総利益	3,587,119	5,539,100
販売費及び一般管理費	3,345,775	4,784,200
営業利益	241,343	754,900
営業外収益		
受取利息	1,069	1,965
受取配当金	11,878	11,079
受取賃貸料	29,967	32,163
持分法による投資利益	49,413	－
受託研究収入	4,020	40,066
その他	34,227	47,662
営業外収益合計	130,575	132,936
営業外費用		
支払利息	28,228	27,825
持分法による投資損失	－	1,575
貸倒引当金繰入額	38,700	－
その他	27,549	56,719
営業外費用合計	94,477	86,119
経常利益	277,441	801,717
特別利益		
固定資産売却益	－	68,502
クレーム補償金	12,196	－
保険解約返戻金	－	18,177
作業くず売却益	51,980	－
投資有価証券売却益	5,924	2,990
負ののれん発生益	－	1,172,614
その他	－	5,142
特別利益合計	70,101	1,267,427
特別損失		
固定資産売却損	－	164,120
固定資産処分損	7,556	81,891
減損損失	24,571	1,856
災害による損失	－	30,091
株式交換費用	－	83,000
借地権償却額	－	12,335
確定拠出年金移行損	49,518	－
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	－	17,454
その他	－	5,251
特別損失合計	81,646	396,001
税金等調整前四半期純利益	265,896	1,673,142
法人税、住民税及び事業税	154,834	256,918
過年度法人税等	57,237	－
法人税等調整額	△15,271	△104,810
法人税等合計	196,800	152,108
少数株主損益調整前四半期純利益	－	1,521,033
少数株主利益	－	29,009
四半期純利益	69,096	1,492,024

（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 (自　平成21年12月１日 至　平成22年５月31日)	当第２四半期連結累計期間 (自　平成22年12月１日 至　平成23年５月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	265,896	1,673,142
減価償却費	250,999	316,844
持分法による投資損益（△は益）	△49,413	1,575
減損損失	24,571	1,856
株式交換費用	－	83,000
借地権償却額	－	12,335
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	－	17,454
負ののれん発生益	－	△1,172,614
退職給付引当金の増減額（△は減少）	66,012	47,833
貸倒引当金の増減額（△は減少）	38,615	△6,609
受取利息及び受取配当金	△12,947	△13,044
支払利息	28,228	27,825
売上債権の増減額（△は増加）	47,910	△302,668
たな卸資産の増減額（△は増加）	△27,859	△258,976
仕入債務の増減額（△は減少）	△529,274	381,585
未払費用の増減額（△は減少）	69,979	118,497
その他	△130,331	257,169
小計	42,387	1,185,204
利息及び配当金の受取額	34,095	15,871
利息の支払額	△28,346	△28,234
法人税等の支払額	△212,254	△191,489
法人税等の還付額	－	21,382
営業活動によるキャッシュ・フロー	△164,118	1,002,735
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△119,294	△340,274
無形固定資産の取得による支出	△17,110	△24,149
有形固定資産の売却による収入	－	899,097
投資有価証券の取得による支出	△4,617	△147,877
子会社株式の取得による支出	－	△133,062
その他	14,448	102,607
投資活動によるキャッシュ・フロー	△126,573	356,340
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	500,000	100,000
長期借入金の返済による支出	△120,000	△150,000
社債の償還による支出	－	△175,000
配当金の支払額	△71,835	△71,210
少数株主への配当金の支払額	－	△28,989
その他	△8,603	△12,992
財務活動によるキャッシュ・フロー	299,560	△338,192
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5,346	△9,628
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	3,522	1,011,254
現金及び現金同等物の期首残高	1,679,861	3,430,778
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,683,383	4,442,033

（４）継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

（５）セグメント情報
【事業の種類別セグメント情報】
前第２四半期連結累計期間（自平成21年12月１日　至平成22年５月31日）

	医薬品（千円）	医薬・香粧原料（千円）	化成品（千円）	食品原料（千円）	計（千円）	消去又は全社（千円）	連結（千円）
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	8,783,566	8,981,173	4,712,721	1,991,912	24,469,375	－	24,469,375
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	－	229,033	－	－	229,033	(229,033)	－
計	8,783,566	9,210,207	4,712,721	1,991,912	24,698,409	(229,033)	24,469,375
営業利益（又は営業損失）	△47,874	490,292	60,681	61,923	565,022	(323,678)	241,343

（注）　事業区分の方法及び各区分に属する主要な製品の名称
事業は製品の種類及び販売経路の類似性によりセグメンテーションしております。

事業区分	主要な製品
医薬品	医療用、一般用、動物用及び体外診断用医薬品、検査用試薬
医薬・香粧原料	医薬品原料、香粧品原料
化成品	電子工業用薬品、表面処理薬品、化成品
食品原料	天然調味料、乾燥野菜、乳製品、果実・茶の加工品

【所在地別セグメント情報】
前第２四半期連結累計期間(自平成21年12月１日 至平成22年５月31日)において四半期報告書提出会社及び連結子会社は、同一の本国に所在し本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社の売上がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】
前第２四半期連結累計期間(自平成21年12月１日 至平成22年５月31日)の海外売上高は、連結売上高の10％未満のため、記載を省略しております。

【セグメント情報】

１．報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社及び子会社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、取扱商品及びサービス等による区分を基礎としたセグメントから構成されており、「医薬品事業」、「医薬品原料・香粧品原料事業」、「化成品事業」、「食品原料・機能性食品事業」の４つの報告セグメントとしております。

各報告セグメントに属する主な取扱商品は次のとおりであります。

報告セグメント	主な取扱商品及びサービス等
医薬品事業	一般用医薬品・医療用医薬品の製造及び卸売、動物用医薬品・体外診断用医薬品・研究用試薬の卸売、保険薬局
医薬品原料・香粧品原料事業	医薬品原料・香粧品原料の製造及び販売、化粧品ＯＥＭ製造受託
化成品事業	電子工業薬品・表面処理薬品・化成品の製造及び販売、表面処理薬品原料等の販売
食品原料・機能性食品事業	食品原料の製造及び販売、サプリメント原料の販売、サプリメントＯＥＭ製造受託

２．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第２四半期連結累計期間（自平成22年12月１日　至平成23年５月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	医薬品	医薬品原料・香粧品原料	化成品	食品原料・機能性食品	計				
売上高									
(1)外部顧客に対する売上高	9,076,517	7,380,322	4,732,865	4,174,307	25,364,013	1,861,878	27,225,891	－	27,225,891
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	139	242,583	－	－	242,723	5,258	247,982	△247,982	－
計	9,076,657	7,622,905	4,732,865	4,174,307	25,606,736	1,867,137	27,473,873	△247,982	27,225,891
セグメント利益又は損失(△)	△16,717	505,753	271,323	223,236	983,597	114,017	1,097,614	△342,714	754,900

（注）１．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医療機器等の販売、プリント配線板等の製造プラントの製造及び販売、化粧品の販売等を含んでおります。

２．セグメント利益又は損失（△）の調整額△342,714千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△340,989千円及び棚卸資産の調整額△1,725千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（重要な負ののれん発生益）

当第２四半期連結会計期間において、「化成品」及び「その他」セグメントにおいて、1,172,614千円の負ののれん発生益を計上しております。これは連結子会社であるメルテックス株式会社と株式交換を行い、同社を完全子会社としたことにより発生したものであります。

（追加情報）

第１四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号　平成21年３月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号　平成20年３月21日）を適用しております。

（６）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、連結子会社であるメルテックス株式会社と平成23年４月１日に株式交換を行い、同社を完全子会社といたしました。この結果、当第２四半期連結会計期間において資本準備金が2,118,743千円増加し、当第２四半期連結会計期間末において資本準備金が4,205,222千円となっております。